

日本学術会議 課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会
人材育成・国際ネットワーク分科会（第5回） 議事要旨 文責：斉藤

日 時：平成22年10月15日（金） 10：45～11：45

場 所：日本学術会議6階 6-C（1）会議室

出席者：（委 員）小谷、田村、田中、斉藤、（小委員会委員）、古川
（事務局）原、（欠席）中埜、大町、今村

提出資料 ・ 前回（第4回）議事要旨（案）

議事内容

1. 前回議事録確認

（修正等はとくになし。）

2. 意見交換

- ・この分科会では、人材育成と国際ネットワークについて、その必要性、現状の課題、進むべき方向をまとめた総論と、それぞれの専門分野（地震災害、水災害、風災害、津波災害など）からの意見をまとめた各論に分けて、まとめてはどうか。
- ・本分科会の扱う“人材育成”と“国際ネットワーク”の定義や扱う範囲を明らかにする必要がある。たとえば、これまでの講演では、国際的に活躍できる日本人をいかに育てるかという視点が欠けている。これも人材育成として重要である。
- ・人材育成と国際ネットワークを切り離して考えた方がよいのではないか。たとえば、アジア防災センターが取り組んでいる国際機関のネットワークは、人材育成とは違う。
- ・たとえば建築研究所の国際地震工学センターのように、人材育成とリンクした国際ネットワーク作りをしている例もある。完全に切り離すことは難しい。
- ・大学は基本的に個人の資質を高める人材育成をしている。一方、国の研究所は個人というよりも国や機関を対象にしている。同じ人材育成でも、対象や役割が異なる。
- ・国際的に活躍できる日本人の育成は、どちらかというとも大学の役割ではないか。
- ・防災科学技術研究所のような独立行政法人は、研究だけをしていると大学とどこが違うのか問われるため、国際機関とのネットワークづくりのようなこともやらざるを得ない面がある。
- ・基本戦略分科会が大枠をまとめるので、その材料となるような意見を本分科会でまとめればよいのではないか。

3. 次回までの宿題

- ・全体会議の講演資料を見直して、各自の専門の立場から人材育成と国際ネットワークについて、必要性、課題、進むべき方向などをまとめたメモを提出する。書きぶりについては、個別の事情よりは、できるだけ一般論を述べる。

11月11日（木）までに、幹事の斉藤（tsaito@kenken.go.jp）に提出する。

4. 次回日程（予定）

- ・11／15（13：30～） 分科会みの開催（予定）

以上